

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 特定非営利活動法人 京田辺シュタイナー学校  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（小中高一貫）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒 610 -0332  
京都府京田辺市 興戸南鉾立 94 番地  
E-mail ktsgkyoin@gmail.com  
Website https://ktsg.jp/  
幼児児童生徒数 男子 118 名 女子 143 名 合計 261 名  
幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校では、シュタイナー教育のカリキュラムに基づき、「強い意志」「豊かな心」「明晰な思考」の育成を目指している。成長段階に応じて、世界を広げていく学びにより、自分の内面も豊かにしていく。「自ら考え行動する人間」「人とともに喜びをもって生きる人間」に育つことを目指し、日々実践を重ねている。

シュタイナー学校のカリキュラムは、ESD の教育目標と重なるところが多く、日々の授業の中で ESD の総合的学習を実践している。

具体的には、①自然環境に関わる学習、②国際理解に関する学習、③文化・伝統の継承に関わる活動を今年度は行った。

### ① 自然環境に関わる学習

(ア) 米作り（小学 3 年）：一年を通して取り組んだ米作りは、春に粃を蒔くことから始めた。田植え、稲刈りは 7 年生の力も借りて行った。収穫したお米と小豆で小豆ご飯を炊き、お味噌汁、校庭の梅で作った梅干しと梅ジュース、畑で育てた大根で作ったたくあんを一緒にいただいた。

(イ) 川と森での研修旅行（小学 6 年）：和歌山県の清流「古座川」でのカヌーによる川下りと、その上流での森林体験、その下流の海での海水浴などを通して、流域の人々の暮らしの変化を体験的に学んだ。

(ウ) 西表島への修学旅行（中学 2 年）：沖縄県の西表島の大自然の体験と、島の行事「海神祭」への参加を通して、地域の方々の暮らしを学んだ。



(ア) 米作り (小3)



(イ) 研修旅行 (小6)



(ウ) 修学旅行 (中2)

## ② 国際理解に関する学習

(ア) 立命館アジア太平洋大学 (APU) での異文化体験 (高校1年) : 大分県の APU を訪問し、英語による国際学生との交流を通してアジア地域の文化に触れた。

(イ) オーストラリア (AU) との国際交流 (高校1・2年) : AU のアデレードにあるシュタイナー学校との生徒の相互訪問を通して、お互いの文化の違いについて理解を深めた。



(ア) APU 異文化体験 (高1)



(イ) オーストラリアとの国際交流 (高1・2)

## ③ 文化・伝統の継承に関わる活動

(ア) 伝統行事「竹送り」への参加 (小学4年) : 自分たちの郷土の学びとして、長年続けられている伝統行事「竹送り」に参加し、地域の方達との交流を深めた。

(イ) 銅の鍛金実習 (高校1年) : 銅の性質を生かした伝統の技に触れる体験として、銅の器の製作を行った。



(ア) 「竹送り」への参加 (小4)



(イ) 銅の鍛金実習 (高1)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 夏休み等の長期休暇中)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

日常の各教科の授業全体に ESD が浸透していると考え。これまでと同様に、カリキュラムの中で各学年の成長段階に応じた授業を実践した。また、カリキュラムを教員間で共有し、教材や内容等協議したうえで、学校全体として取り組んでいる。今年度は ESD 重点校（サステイナブルスクール）としての活動も始まり、他の学校との教員間交流を行った。他方、高等部生徒の希望者を募る形で、地域の学校間交流、国際交流など様々な活動を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体でユネスコスクールや ESD について学ぶため、今年度は教員研修を行った。6名の教員が神奈川県永田台小学校を視察し、学んだことを今後の活動に生かしていけるよう話し合いを持った。また今年度はユネスコスクール担当者以外の教員が生徒を引率し、学内で生徒の活動を共有した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学内では各クラスの学びの様子を逐次共有し、会議や研修の場で互いに指摘しあい、質の向上を目指すべく努めている。毎年、高校3年生の卒業プロジェクト発表会を数名の外部評価委員に公開し、本校の学びの成果を見ていただき、客観的な視点で分析、評価していただいている。各学年の児童・生徒一人一人の健全な成長が見られる一方、今年度の課題としては、作品内容の充実に留まらず、冊子装丁の完成度も含めたスケジュール管理力の更なる向上が期待された。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度は京都にて開催された「京都ユネスコ協会自然観察展」に、中学1・2年生の生徒の研究の成果を出展した。2名の生徒が優秀賞をいただき、生徒の学びへの意欲が高まった。また高等部生徒は、大阪 ASP net、京都 ASP net でのワークショップや交流会において、学内での学びを発表し、他校の生徒と共有した。日常の学習内容の充実や個々人の成長を実感し、自信が持てるようになったと感じる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ASP UnivNet 加盟大学である大阪府立大学、京都外国語大学より、ASPnet 大阪、ASPnet 京都の両ネットワークにおいて、充実した支援(人、場所、情報など)を受けながら、活動をしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度も引き続き、大阪 ASP net、京都 ASP net を通じて、大阪府、京都府、奈良県等、近隣の都道府県内のユネスコスクールと交流を深めている。今年度は新たな取り組みとして、大阪府立佐野高校との夏の合同合宿を企画し、一泊二日で昔の生活体験をさせていただいた。大阪のネットワークにおいては中国の児童生徒との交流をし、また韓国からの教員招聘プログラムでは観光やディスカッションの機会を持つことが出来た。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

本校が NPO 法人立である特殊性から、従来より一般の公立学校との生徒・教員間での多面的な交流の難しさが課題とされてきたが、ユネスコスクールのネットワークを通じた活動の充実により、生徒、教員ともに、豊かな交流が実現しつつある。これは、双方のカリキュラムや授業実践の研究に大いに役立っていると確信している。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

ユネスコスクールに関連したものとしては、平成 29 年度に引き続き、ASPnet 大阪、ASPnet 京都での年間を通じた活動に参加していく。ASPnet 大阪では「日中国際ワークショップ」を、ASPnet 京都では京都府内のユネスコスクール間の交流を主目的とした「ESD 交流会」を計画的に立案し、実施していく予定である。  
また、学校内においては、従来通りシュタイナー教育のカリキュラムに基づき、生徒の成長段階に応じた各種の学びを 29 年度と同様に実践していく。